



脚本_沢松寮の サンタクロー



karasuno10

雪

沢松寮のサンタクロース

烏野 博史

人物

みついでずる
三井讓 (33) 沢松寮・OB、自営業

やましたげんき
山下元氣 (28) 同・同、会社員

そのだはなこ
園田花子 (50) 同・園長

ほしのけんた
星野健太 (7) 同・児童、小学生

子供1 (8)

子供2 (6)

子供3 (7)

子供4 (8)

① 三井の事務所

ガストローブの上にやかん。机の上で
サンタクロースの服装にミシンをかけ
みっいゆする
ている三井讓（33）。

服装を壁に掛けて見つめる三井。
やましたげんき

山下元氣（28）が入ってくる。

山下「おお寒。みっちゃん仕事終わったかい？」

三井「当たり前だ」

山下は冷蔵庫を開ける。

山下「牛乳もらって良い？」

三井「その牛乳賞味期限切れているぞ」

山下は牛乳を一気に飲み干す。

山下「花子先生の所に行こうよ」

三井は溜息をつく。

② 児童養護施設“沢松寮”・前

門前に沢松寮の看板。

③ 同・コスモス寮舎・前

ドア前に“コスモス”と書かれた札。

子供1（8）の声「花子先生ええ！」

④ 同・同・リビング

洗濯かごを持った園田花子（50）が歩いている。

入口から子供1がかけ入ってくる。

花子「どうしたの？」

子供1「お客さん」

入口の外の三井と山下を指差す子供。

三井「花子先生」

花子は口角を上げる。

⑤ 同・事務室

花子と机を挟んで向かい合っている山下元氣と三井讓。

花子「わざわざありがとうございます」

山下「それはもう。かわいい寮の後輩達のためですから」

三井「クリスマスイブ……明日の夜にサンタとトナカイの格好をして伺います」

花子「夜……どうして？」

三井「健太君はもちろん、コスモス組の他の子供達にも“本物のサンタが来た”と思わせたいからです」

花子「……わかりました。よろしくお願いします」

花子は頭を下げる。

⑥同・沢松寮・前（夜）

本格的なサンタクロースの格好をした三井と茶色の全身タイツにトナカイの絵を張付けた紙の輪を頭につけた山下立っている。三井と山下はプレゼントの入った袋を背負っている。

仁王立ちの山下を見つめる三井。

三井「……何だその格好」

胸をたたく山下。

山下「わからないのかい？ サンタクロースの相棒の赤鼻のトナカイだよ！」

額を押さえる三井。

⑦同・コスモス寮舎・リビング（夜）

星野健太（7）と他の子供達が机を並べて、手羽先を食べている。

三井と山下が入口から入ってくる。

三井「メリークリスマス！」

山下「（同時に）メリークリスマス！」

騒然とする子供達。

三井「私はサンタクロース。こいつは——」

山下「赤鼻のトナカイです」

三井「寮の皆にプレゼントを持ってきました」

三井と山下は二手に分かれて、プレゼントを渡していく。

笑顔でプレゼントを渡しながら三井は

健太の前までやって来る。

じつと三井の顔を見つめる健太。

三井「はいいいプレゼントだよー……」

健太「本物のサンタさん？」

山下は三井と健太に近づく。

山下「どうしたんだいサンタさん」

山下は袋からプレゼントを取り出す。

山下「プレゼントだよ」

健太は山下を見る。

健太「偽者だ！」

健太は立ち上がる。

山下「何言ってるんだ。どう見ても本物のトナカイじゃないか？ なあサントさん」

三井「いや、君は臨時で雇った偽者のトナカイだ」

山下「サントさん！」

三井「だが私は本当のサント・クロースだよ。信じてくれるね」

健太はじつと三井の顔を見る。

三井と山下をじつと見つめる子供達。

子供1「本物だよ」

子供2（6）「すげえ初めて見た。ひげ白い」

健太は席に座る。

子供3（7）「サントさんどうやってきたの」

山下「サントさんに代わって答えよう。僕がそりをひいてきたのさ」

子供4（8）「雪がふってないけど、重くなかった？」

山下「何言ってるんだい。この力こぶをみなよ」

山下は力こぶを作ってみる。

健太「サンタさんにお問い合わせがあるんだ……」

山下「何だい。このトナカイに言ってみな」

健太は辺りを見回す

健太「……ここじゃあちよつと」

マッスルポーズを取る山下に登る数人の子供達。

⑧ 同・同・健太の部屋（夜）

勉強机のある部屋。山下と健太と三井が部屋に座っている。

健太「サンタさんにお問い合わせがあるんだ」

三井「何だい？」

山下「何だい？」

健太「……本当に本物なんだよね？」

三井は頷く。

健太は机の引き出しからスケッチブック

クを取り出し三井と山下に見せる。

スケッチブックには健太と健太の父（33）が一戸建ての家の中で笑っている絵が描かれている。家の外に描かれている大粒の雪。

山下「健太は絵が上手だなあ」

三井「……お父さんかな？」

健太はうなづく。

健太「もうすぐ、お父さんと一緒に住む約束をしているんだ」

山下「よくわかったねサンタさん」

三井「健太君が描かれているからね」

健太は頭を掻きながら、恥ずかしそうに笑う。

健太「あのサンタさんは、色々な所に行くんだよね？」

三井と山下は目を合わせる。

三井「……そうだね」

三井にスケッチブックを差し出す健太。

健太「この絵を……お父さんに渡してよ！」

山下「それなら花子先生に頼んで郵送してもらえば――」

三井「こら、アルバイトのトナカイは黙っていなさい」

健太は真剣に三井を見つめている。

三井はスケッチブックを受け取る。

三井「分かったこれは預かるう」

健太「ありがとう！」

健太に抱きつかれた三井は尻餅をつく。

⑨ 同・同・リビング（夜）

子供達は健太の部屋を見つめている。

健太の部屋から出てくる三井、山下、

健太。子供達は騒然とする。

子供1「健太だけずるい」

子供2「俺の部屋にも来てよ」

子供3「私にももつとプレゼント頂戴」

三井は空っぽの袋を見せる。

三井「今日持ってきた分のプレゼントは全部皆にあげた。今日は皆の喜ぶ顔が見れて良

かつたよ」

子供達からのブーイング。

山下「仕方ないなあー」

山下は頭につけているトナカイの顔を
描いた紙を取り外す。

子供4「俺頂戴」

山下に飛びかかる子供達。

⑩同・沢松寮・前（夜）

⑪同・事務室（夜）

花子と山下と三井が向い会っている。

ソファアで寛ぐ山下と三井。

お茶を運んでくる花子。

花子「お疲れ様です」

山下「子供の相手も疲れますね」

三井「そうだ健太君から預かり物です」

三井はスケッチブックを袋から取り出
して机の上に置く。

花子「健太君のスケッチブックね」

三井「健太君。サンタクロースからお父さんにスケッチブックを届けて欲しいそうです」

花子「ああそれで……」

山下「花子先生よろしく」

花子は口に手を当てる。

三井「どうかしましたか」

花子「……健太君のお父さんは先月亡くなつたのよ」

三井と山下は目を見開く。

山下「えっじやあこれは？」

花子「サンタさんなら、お父さんに届けられると思つたんでしょね」

三井「……」

山下はソファーにのけぞるようにもたれかかり、窓の外を見る。

山下「……ああ雪だ」

三井、花子は窓の外を見る。

⑫ 同・同・窓の外（夜）

空から舞い落ちる雪。